

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2891100089		
法人名	株式会社ケア21		
事業所名	グループホームたのしい家仁川		
所在地	兵庫県宝塚市鹿塩2-13-19		
自己評価作成日	平成25年8月14日	評価結果市町村受理日	平成25年11月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/28/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 ライフ・デザイン研究所
所在地	兵庫県神戸市長田区菟乃町2-2-14
訪問調査日	平成25年9月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

阪急今津線、仁川駅近く、閑静な住宅街の中に事業所は位置しております。近隣住宅にとけ込んだ外観もさることながら、施設設備も充実して居ります。セキュリティー面も含め、安心して過ごして頂ける住環境が整っております。最寄駅から事業所迄も徒歩圏内であり、入居希望の方の見学、入居されている方への面会にも至極便利で御座います。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

①理念に基づく運営・「安全で楽しく、感謝の気持ちをもって礼儀正しく、プロとしての立ち居振る舞いを忘れず、チームで創るケアマネジメント」を柱に入居者にとって有用性の高い生活空間となるよう取組んでいる。また、事業所を訪問する方々への配慮も忘れず、サイズを異なるスリッパを用意し不具合を感じさせない何気ない「心配り」には事業所のセンスを感じる。②地域とのかかわり・運営推進会議、様々な場面で地域の方々からは多くの情報をいただき、地域との交流が充実してきている。③人材育成と労務管理・法人本部主導の研修制度(階層別・職務内容別研修)及び事業所内勉強会等、職員の能力向上に積極的に取り組んでいる。職員のメンタルヘルス面については法人としての体制が整備されていると共に上席者によるレビュー実施が精神衛生面に良い効果を生んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設内に理念を掲示し、職員全員で共有、実践している。又、朝礼時には、コンプライアンスの読み合わせを行い、法令順守に努めて居る。	「安全・感謝・楽しく・プロとして」の事業所理念を基に職場を設計し、職員一人ひとりが、入居者ご本人が「自分らしい日々」が過ごせるように支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で開催されている行事への参加、自治会に加入し、近隣住民との日常的な触れ合いを大切にしている。近隣商店との付き合いも開始。	日常での散歩や買い物外出時等の近隣の方との交流をはじめ、行事開催時の地域ボランティアの協力もいただけており、地域の中での事業所の存在は浸透してきている。	ホームが地域の方々にとっての社会資源となれるよう、地域密着型サービス理解と浸透への積極的な取り組みに期待をします。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	定期的開催している、運営推進会議において、グループホームの内容を理解して頂くと共に、現状報告を行い、理解をして頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の参加者も、施設側からは現場を熟知しているフロアーリーダー、介護計画を担っている計画作成担当者が参加し、報告を行うと共に、市職員より、随時助言等を頂き、サービスに反映させている。	運営推進会議への出席者からは、様々な情報をいただき地域の中での日常生活が豊かなものとなる様に協力していただいている。今後、事業所情報の発信についてもビジュアル(映像)を交えたもので行うよう計画している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の社会福祉協議会が主催の勉強会、市内の施設が合同で開催する研修に参加している。勉強会においては、施設の詳細、現状、入居希望者の状況等を、他介護事業所に、アピールする事が実現出来た。	市が主催する勉強会にも積極的に参加し、事業所の状況も発信しながら多くの情報を共有している。また、介護相談員の受け入れも実施しており運営には理解を示していただいている。	警察署にも協力を頂き、家族や地域の高齢者等を対象に防犯面等の学習会を開催しては如何でしょうか。(空巣被害、高齢者を狙った詐欺等防止)
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束においては、法人本部において定期的に研修を行い、ホーム内職員にも伝達を行っている。	法人本部主導の研修に事業所内勉強会を加味し、職員全員が身体的拘束等の弊害については理解・共有し、日々のケアに取り組んでいる。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	上記同様、本部、ホーム内で定期的に研修を行っている。併せて管理者、リーダーを中心にして、不適切なケアに関しても、日常的に確認を行っている。	高齢者虐待へつながる「不適切なケア」の段階から職員相互に確認し合って日々のケアにあたっている。職員のメンタルヘルスについては、管理者が個別面談をタイムリーに実施し、精神衛生面に配慮している。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度においては、2名の入居者が活用されている。又法人内に地域包括支援センターがある為、情報も入手出来る環境にある。	法人本部での研修も整備されており、全職員が制度を理解しており、上席者は、認知症高齢者支援の一方策としての理解の下、家族等へも適宜情報を発信している。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は管理者が行っている。その際、重要個所特に重度化に関する指針の説明を含めた、重要事項には、充分な時間を割いて、納得して契約して頂く様にしている。	契約前に見学(ご本人も)、質疑応答等を行い、ご家族との「認知症」への理解・共有に努め、入居後に齟齬が生じないようにして契約を結んでいる。重度化・終末期への対応方針も説明し理解をいただいている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的には、運営推進会議、年1度の顧客満足度調査、随時には、家族の来訪時やお客様相談室を通じて対応し、即時変更、実践を心掛けている。	運営推進会議、来訪時、アンケート(満足度調査)、電話等様々なチャネルを通じて意見等を聴き取る機会を設けている。いただいた意見等(地域を含めた防災訓練の実施等)へは即時対応するよう取り組んでいる。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に1度、従業員満足度アンケートを法人本部は実施し意見や提案をヒヤリングする機会を設けている。又ホームでは、月に一度、フロア毎に、フロア会議を開催し、意見を募り、実践に繋げている。	法人本部主導のアンケート(満足度調査等)や個別面談、事業所での管理者とのレビュー、フロア会議(月例)での意見具申等、風通しの良い職場環境となっている。具申された意見等へは誠実に応えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	誰伸び人事制度を導入し、人事考課を行っている。残業0を会社も目標に掲げ、夏冬の休暇も職員全員が取得出来る様にしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で様々な研修が行われ、特にコーチング研修が、全従業員参加という目標掲げ、労働意欲向上にも一役かっている。介護技術、計画作成等、実践的な研修も網羅されている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の兵庫県に位置するGHとは、管理者やリーダーが定期的に集まり、意見交換や勉強会を開催し、より良いGH作りに生かす事が出来ている。		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時には、現在一番困っている事をお聞きし、そこから派生する要望や不安を傾聴する。それに基づき、ケアプラン作成に反映させると共に、職員間で情報共有を行っている。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者においては、契約時に実直な意見を家族様から頂き、職員においては、入居時、面会時には現状報告を行いつつ、その先に見えてくる不安等にタイムリーに対応している。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	15)同様、現在一番困っている事を質問する事になっている。その対応は即実践に努めている。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ADLに応じて、可能な限り実現可能な家事等を手伝って頂き、生活を共にしている。		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の入居以前の様子を家族様にお聞きする事で、今抱えている問題を解決に導いたり、行事を含めた施設での催しに参加して頂く事により、共感が生まれている。		
20	(11) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、知人の訪問も多く、常に面会の方が来られている。又日常的に、昔から付き合いのある医院には、家族が付き添いの下、通院も行っている。	昔からの馴染みの知人や友人の訪問頻度が増え、楽しい時空間を共有する機会が持っている。また、家族との外出(外食、ドライブ、通院等)も頻繁にされている。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	年齢、性別、コミュニケーション能力を考慮し、より良い生活が営める様に席の配置や調度品等のレイアウトにも配慮している。		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院等に出向く事で、契約終了後の様子を知る事が出来、職員間でそれを共有している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	(12) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御本人や家族様からヒヤリングを行い、日常的な申し送りや、月例のカンファレンスの際に検証し、支援につなげている。	日常生活の中での会話や仕草・言動を汲み取り、ご本人の思い・意向を家族と共有しながら、職員全員が日々の関わりの中で検証している。	
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前後には、利用されていた事業所、その職員、かかりつけ医等、あらゆる方面からの情報収集をぬい努めている。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常的な体調や心理状況の変化に留意し、記録を残し、申し送りや連絡網を通じて、職員間で情報を共有している。		
26	(13) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員、家族、医療連携者等、本人を取り巻く各関係者が連携し、介護計画の作成に反映させている。	ご本人の思い・意向に家族の要望、担当職員の意見や医師・看護師よりの情報も踏まえ、ご本人に望ましい日常となるよう介護計画書を作成している。介護計画の検証は、カンファレンスにより行っている。	更に、利用者の思いが介護計画に反映出来るよう、日々のケア記録の取り方の工夫に期待をします。
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケア記録と並行し、連絡ノート等を活用し、実践や介護計画の見直しにつなげている。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族様等からの要望や訴えを傾聴し、今までに行って居ない支援も行っている。		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事への参加、近隣商店での買い物等を行っている。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医による月2回の往診有り。24hのオンコール体制で、緊急時にも指示を仰げる。内科以外の受診に際しても、支援してもらえる。受診時には、家族と協働している。	協力医(内科)による月2回の往診に24hオンコール体制を敷き、ご本人の適切な体調管理を行っている。かかりつけ医への受診支援は家族と協働し、情報の共有の漏れがないように努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月4回、訪問看護師による健康チェックが有る。入居者様の日常的な、ケアの注意点等のアドバイスを貰える。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	総合病院との提携、協力医の紹介により入院体制は整備されている。入院時には、管理者、計画作成者、リーダーが中心にお見舞いに行き、利用者の不安を取り除くと共に、病院関係者との連携も密に情報共有している。	入院中は、入居者の不安感を軽減するため頻度あげて面会をおこなっている。早期退院を前提に病院とは連携を密にし、情報共有に不備が生じないように努めている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化・終末期に関する取り組み方針を説明し、理解して頂いている。実際に終末期を迎える際には、協力医との連携、家族様へのヒヤリング、事業所で出来る事、難しい事を明確にし、なだけ意向に沿える様な、本人の最期を意義あるもの出来る様な体制を敷いている。	事業所での最期を望まれる入居者へは、関係者(家族、医療関係者、職員等)がチームを組んで望ましいケアを実践する体制を敷き支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時の対応マニュアルは、施設内に掲示している。また、定期的に法人本部での研修も行われている。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中帯、夜間帯を想定した避難訓練を実施している。	年2回(日中帯・夜間帯想定)の訓練を実施している。その際の課題(リアルタイムな計画更新の必要性等)も関係者全員で共有している。また、地域の方々参加の訓練も今後予定している。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人本部にて、接遇・個人情報保護、認知症ケア等の研修を行っている。認知症高齢者の実態を理解する事で、尊厳や羞恥心への配慮が生まれている。	「認知症疾患」の本質を理解すると同時に人間の尊厳・羞恥心(人格権)へも配慮しながら、ご本人の『強み』の維持・継続が出来る様に支援している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様自身が自己決定出来る様な、外出・食事・行事等を図っている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事・入浴・更衣・排泄等、日常的な様々な場面において、声掛けには留意し、個々の生活リズムを尊重する様にしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様本人の意思を尊重し、訪問理容を定期的に利用し、服装に関しても季節に応じた選択を自身にして頂いている。			
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様のADLに応じた、調理・盛り付け・配膳・下膳等を職員と共に頂いている。イベント食や、出前等の食事楽しみの一つである。	入居者の状況に応じた食事形態(普通食、ソフト食等)を提供している。調理・盛り付け・配膳等を職員と協働し、『食』への関心を高める日々を過ごせるように支援している。外食やイベント食(出前等)も楽しみ事となっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を介護記録に記載し体調管理に努めると共に、食事形態も状況に合わせて対応している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月4回の歯科医の訪問診療を受け、食後の口腔内のチェックも職員が、日常的に行っている。			

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者各人の排泄パターンに応じた、的確な支援が行える様、把握に努め、状況を都度申し送りしている。	入居者個々人の排泄パターンやそのサインを把握し、トイレでの排泄が実践できるよう取組んでいる(2人介助も含む)。夜間帯は、パット交換の方もおられる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入居者各人の排便状況を把握し、食事や水分補給に留意する事により、対応している。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日を固定する事無く、本人の体調や状況に合わせて、入浴を行っている。入浴前の体温・血圧の観察後、入浴剤等を用いて入浴して頂いている。	最低週2回の入浴を基本とし、ご本人の意向に沿った入浴が行なえるよう取組んでいる。入浴剤や季節湯などを採り入れ、入浴がリラックスできる時間帯となるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の体調や気分を考慮し、出来る限り本人の意思に沿った支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	提携薬局よりの処方箋の管理、変更点の把握を、スタッフ間で共有する事としている。服薬時にも複数名で、内容確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者個々の身体状況・精神状況・趣向に応じた楽しみを提供すると共に、これも出来る範囲内での役割を持った生活を送って頂いている。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調や天候等にに合わせて、敷地内菜園の水やりや、庭の手入れ等を行い、近隣商店への買い物等も楽しんでおられる。	散歩を兼ねた買い物外出や庭での水遣り、ベランダでのティータイム等、適度な刺激(外気浴)も意図的・計画的に取組んでいる。また、個別外出計画(週間ベースで)を立て実践している。	個々の利用者の心身状況により「外出支援の目的」も様々と考えられます。今後、利用者の思いに沿った支援の継続を願います。

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お預かりしているお金で、必要に応じて希望する物を購入している。その際、支払いは入居者本人にレジでの精算を見守りの下、して頂いている。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状、暑中見舞い等の送付、知人への葉書作成等、入居者本人が、積極的に行われている。		
52	(23) ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは十分な日光が取り入れられ、フロアから屋外に出て外気浴や園芸が楽しめる空間がある。	リビングは日差しが心地よく入っている。ソファでの談話やベランダでの憩いのひととき等、ゆったり、穏やかに過ごせる共用空間となっている。季節毎の行事写真や壁飾り(共同作品)を掲示し四季の移ろいを感じる工夫も行っている。	
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食責のみならず、ソファを使用し談笑もされ、時には別のフロアにも訪問したりして、空間を利用されている。		
54	(24) ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、馴染みの家具・衣類・食器等を持参して頂き、快適に過ごして頂ける様にしている。各居室には洗面台が設置されており、衛生的である。	居室の入口にはご本人の活動的な写真も掲示し、馴染みの物を持ち込み、個別の部屋作りを意識している。洗面台が設えてあり衛生面であり、また、ADLに合わせた家具等の配置・介護用品の相談等にも対応している。	
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	様々な場所に手摺が設置されており、安全な空間に成っている。		